第０５６号　「ありがとうの輪」新聞　発行日：2012年11月20日

●紅葉の樹々よ、ありがとう

今年は、夏が長く居座り、秋にまでずれ込んだ為に、心地よい秋を堪能する間もなく、一足飛びに、晩秋が訪れた感がある。

日中の陽射しは穏やかでも、朝夕の冷え込みは、つい先日まで残暑が、信じられぬ程の気温の落差である。

この頃になると、あちらこちらから、紅葉の話が聞こえてくる。

遠い北国の山を、転げ落ちるようにして、鮮やかな紅色や黄金色に、変身した樹々が、山裾から山里へ、そして、人里へと移ろい、万人の目の保養をしてくれる。

これも、四季折々に変化をもたらす、この国特有の時節に対する、樹々からの贈り物だろう。

俗に「絵にも描けない美しさ」と言う言葉があるが、誰もが感嘆の声を上げる、自然の織りなす絢爛美には、いかに高名の画家で有っても、表現は不可能だろう。

昨今のテレビ情報では、日光あたりが、紅葉の最盛期と伝えいる。

（十一月初旬現在）

齢を重ねるごとに、行動半径が狭まり、遠出は望めなくなってきたが、血気さかんな若い頃には、気心の知れた仲間たちと、紅葉狩りなぞと洒落て、十和田、会津磐梯、日光などにまで足をのばしてはみたが、紅葉はそっちのけで、酒宴で盛り上がった、面々の顔も紅葉に負けずに、赤くそまっていた、あれから幾星霜ー。

体力は衰えてきたが、気力だけは、若者に負けぬぐらい高揚している。

紅葉して目の保養をさせてくれた、樹々たちよ「あ、り、が、と、う」

（世田谷区／Ｈ・Ａ）

●先われスプーンにありがとう

秋晴れのすがすがしい日、自宅の近くでフリーマーケットが開かれていました。行き交う人たちはのんびりといろいろな品物を見て回っています。

私は何を買おうか特別に決めていませんでしたが、見るともなく日用品のコーナーに目が止まりました。それは大小様々のスプーンやフォークの中に埋もれていた、一本の先われスプーンです。

一昔前、学校給食で大活躍をしていたスプーンですが、児童が犬食いになり、お箸が使えなくなるということで追放された代物です。本当は一本でナイフにもなったり、スプーンにもなったりで、箸にもなったりできるという優れものです。でも世論には勝てません。とうとうこのスプーンは姿を消してしまいました。そのスプーンを見て、とてもなつかしく思いました。値段を聞いてみると５０円。こんなに安いのです。早速買いました。

家に帰って茹でたトウモロコシをこのスプーンで食べました。かぶりつかなくても、並んでいる実の通りコロコロと上手に取れます。

また西瓜を食べる時も、種がスッスッと取れます。「掘り出しものを見つけたなぁ。」先われスプーンをしみじみとながめています。勿論、箸と併用ですが、さて、今度は何を食べようか楽しみです

先われスプーンにありがとう。

（目黒区／Ｈ・Ｋ）

●てんとう虫にありがとう

秋晴れの暖かな日、友達の家族と千葉へお芋掘りに出かけました。

日ごろからやる気のない子だなぁと、長男のことを思っていましたが、それは私の思いこみでした。みんなと一緒に夢中になってお芋を掘っている姿は、こんなにも意欲があったのかと思うほど力強く、輝いていました。子供の良い所を見つけることが出来、とても嬉しい一日でした。沢山のお芋掘りが出来ました。

農家の方が親切に「栗拾いもどうぞ」というので、初めての栗拾いに子供は無我夢中で拾っていました。

すると突然目が痛いと泣き出し、目が真赤に腫れ、帰りのバスでも涙が止まりません。何かにかぶれたのかと思い、家に着くとすぐに病院に連れて行きました。

診断してもらうと病院の先生もびっくり、驚いたことに目に入って暴れていたのは、小さなてんとう虫でした。大自然からの痛い痛いお土産だったねとみんなで大笑いし、ユーモアいっぱいの思い出になりました。

てんとう虫よ、ありがとう。

（大田区／Ｍ・Ｏ）

●古希の旅にありがとう

長野の中学時代の同級生男女１６人で北海道へ古希の記念旅行に出かけました。私は久しぶりの参加だったので、１０年ぶりの人、学校ではほとんど話したことのない人もいましたが、年は重ねてもどこかに幼顔が見え、懐かしい友との再会でした。

天気予報では三日とも雨。「この雨は〇〇のせいだぞ」とワイワイ言いながら函館入りし、夜景を見るころには小雨となり、翌日からは晴天に恵まれました。

美しい景色と美味しい食事をいただきながら旧交を温める道中、それぞれの七十年の歴史が見えてきました。良き祖父祖母あり、現役の人あり、連れ合いが亡くなり一人生活の人、長年住みなれた土地を離れ子供の近くに行った人、子供の悩み等それぞれ課題を抱えながら精一杯頑張っている尊い姿でした。

笑ったり、励ましあったり、慰めあったりしながら、まだまだこれからも明日へ向かうエネルギーを頂いた旅となりました。七十年間、家族、多くの人に支えて頂き歩んでこれたお陰様に感謝です。ありがとうございました。

（横浜市／Ｙ・Ｋ）

©2012.11by Holonics Sohken Co.Ltd.　http://1039.seesaa.net

発行：株式会社 ありがとう・不動産　〒113-0033　東京都文京区本郷1-35-12 かんだビル7階　TEL.03-5684-1039　FAX.03-5684-0031

●見守ってくれてありがとう

家の中はいつも賑やかで大騒ぎ。長女小三、次女小一、長男四才。

私は家事、育児、仕事（看護師）と忙しい毎日の中で子供たちを怒ってしまったり、主人と喧嘩をしてしまったり、なかなか心を穏やかに生活することができなくて、落ち込んでいました。

そんな時、知り合いの方にものの見方を変えることを教わりました。怒ったり、喧嘩してしまうことがダメなことではなく、イライラしてしまう心の奥底には、仲良くしたい、温かい家庭にしたいという気持ちがあることを教わり、心が軽くなりました。

このことを母に話すと、疲れている私を気遣い、父と母は一週間子供たちを福島の田舎に連れて行ってくれました。子供たちがいないのでゆっくり休めるかと思いましたが、静かすぎて落ち着きません。賑やかで子供たちが元気に走り回って大声が飛び交う…これが一番幸せなのだと気付きました。来年の二月には四人目が生まれます。

いつも陰になり日向になり、私を励ましてくれる、お父さん、お母さん、ありがとう。これからもお世話になります。よろしくね。

（川崎市／Ｋ・Ｔ）

●母ちゃんありがとう

先日、母の所に行ってきました。９８才になる母は、元気に迎えてくれました。

私の生まれ里は、栃木、福島、茨城の県境にあります。昨年は３月１１日から１ヶ月間停電がありましたが、庭で薪を燃やし、畑のものを前の川で洗い、井戸水も大事に使っていたので（今でも井戸水は使っている）、何も困ることはなかったと母は言いました。

福島県と茨城県境に八溝山という高い山があります。

「福島県からの放射能は八溝山が守ってくれた。」

と母は話してくれました。

私の故郷、大子町は小さな町でした（今は合併して大きくなった）。町の周りには里山があり、町中を川が流れ、川沿いに田畑が連なっています。私は学生時代、この里山や連なる畑や田んぼがいやでした。

「東京のおばちゃんの家は水道から水が出とる！すごい！！」

私は父に何度も何度も頼み、東京の大学病院の事務員として上京したのです。５２年も前のことです。私は今年で７２才になりました。若い頃好きでなかった里山や川や田畑が今は懐かしく、愛しく思えます。

母は四季折々の楽しみを丁寧に見つけて、私に話してくれます。帰る日は車が見えなくなるまで手を振ってくれます。

母ちゃんありがとう。またお正月に行くからね。

（桶川市／Ｍ・Ｋ）

●秋日和よ、ありがとう

長かった夏が去り、待ちかねた秋の到来である。

昨日は、夕刻より降り出した雨が、夜半になると風を伴って強まり、ヒュー、ヒューと下手な、笛を吹くような音をあげ、雨は激しく屋根を叩いた。

寝付かれぬままに朝を迎え、寝ぼけ眼で、裏庭の戸を開けると、心地よい冷気が部屋いっぱいに、金木犀の甘い香りを運んできた。

見上げる空は、昨日とは打って変わり、快晴である。天高く澄みわたっているこの様を、「秋高し」と言うのだろう。

つい先日まで、酷暑が続いていたために、暫く取りやめていた公園散策の再開を決めた。

眩しいばかりの、秋日和と言うのに、家に閉じこもるのは、野暮というものである。

昼食後、久しぶりに公園に出向くと、薄茶色に褪せてひからびた、プラタナスや欅などの、落葉が絨毯のように、一面に敷きつめられ、踏みしめる足元からは、カサコソと落葉が、語りかけてくる。

昨夜の強風で、落葉ばかりでなく、大小の枯れ枝があちこちに、落ちている。

枝としての役目を終え、朽ち果てた時点で、強風の力を借りて、排除されているのだ。

自然淘汰の妙には、感じ入るばかりである。だが何処となく、わが身に、重なる思いがよぎる、今日この頃である。

なにはともあれ、引きこもりがちの老体を、外へ連れ出す、機会を与えてくれた「秋日和」よ、あ、り、が、と、う。

（世田谷区／Ｈ・Ａ）

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せていただいた「ありがとう」のことばに因んだ思い出を、作文、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿いただいた方には、ささやかではございますが、オリジナル**「ありがとうメガネ拭き」**をプレゼントさせていただきます。皆様からのご投稿をお待ちしております。また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されてはいかがでしょう。編集へのご意見やご提案がございましたらお聞かせください。

【携帯 Deショット】

太陽の沈む時間が日に日に早くなってきたことに、あと一ヶ月で冬至の日がやってくる。澄み渡った大空が透けて見えるような夕日が沈む光景は、美しくもあり、寂しくも感じる。たなびく雲に遮られても眩しさは燃える想いを誇示するようで、その存在感は目に焼き付いて離れない。

●携帯電話の方はＱＲコードから →→→
●パソコンの方は下記のＵＲＬから↓
http://1039.seesaa.net/
●メールでのご投稿は…
info@holonics.gr.jp

【編集・企画】株式会社ホロニックス総研・編集部

©2012.11 by Holonics Sohken Co.Ltd.　http://1039.seesaa.net

発行：株式会社 ありがとう・不動産　〒113-0033　東京都文京区本郷1-35-12 かんだビル7階　TEL.03-5684-1039　FAX.03-5684-0031